

令和6年度学校評価報告書

新城市立新城小学校

1 目標と学校評価の概要

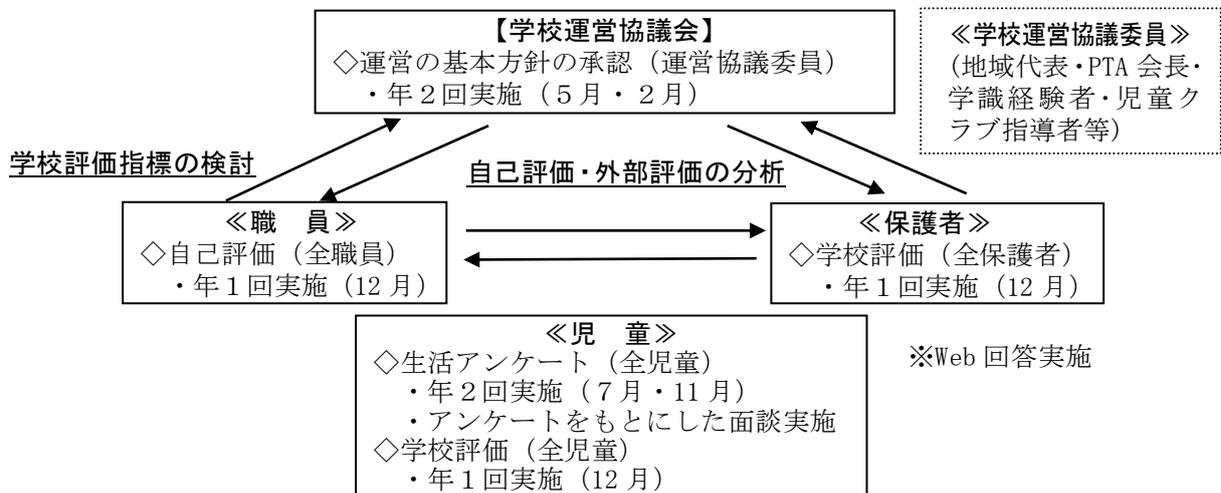
教育目標を「新城小での学びを自信と誇りに、未来をたくましく生きる子どもを育てる。」と定め、校訓「よく学び・よく遊べ・心豊かに・きまりよく」を合言葉に、子ども理解に努め、家庭や地域と連携し、子どもたちが「学校へ来るのが楽しいな」という学校経営を志向する。

- ① 心身の安心安全が担保された教育環境を整える。
 - ・子どもにとっての最大の教育環境は「教師」
- ② 子どもにとって魅力のある授業実践を積み重ねる。
 - ・身近なものを教材にした問題解決的な授業
 - ・他者とかかわり合っ問題解決しようとする場面がある授業
 - ・問題解決の過程（問題発見、追究・解決、成長の自覚）を大切に授業
- ③ 日常を大切に、よい生活習慣を身につけさせる。
 - ・あいさつの励行 「おはよう」「おはようございます」
 - ・豊かな心、相手を思いやる心を育む「たてわり活動」や外遊び

【本年度の重点努力目標】

- ① 子どもの側に立ち、子どもの内側を読み解くことに努める（記録と分析）。
- ② 給食受入施設関連工事に伴う事故ゼロ及び学校安全に万全を期し、事故（交通事故含む）や災害、防犯等に努める。（危機管理に関する各マニュアルの整理）。
- ③ 研究的に実践を進めるとともに、授業力向上プロジェクト「みがく」や各種研究・研修会への参加を促す。
- ④ 授業の周辺事項（朝の会、学習規律、学習環境）や、よい生活習慣（朝のあいさつ、時間を守る、黙動清掃など）を整える。
- ⑤ 特別支援学級と交流学級の連携を重視するとともに、特別な支援が必要な子どもに対して、保護者や他機関と連携しながら計画的且つきめ細かな指導を行う。
- ⑥ 不登校傾向の子どもや家庭に対して、他機関と連携してはたらきかけ登校を促すとともに、新たな一人を出さないよう子どもの小さな変化を共有する体制をつくる。
- ⑦ 日本語指導を必要とする子どもに対して、きめ細かな対応を行う。

【学校評価組織】



2 学校教育活動 ～重点努力目標の一例～

(1) 重点努力目標 ⑤特別支援学級と交流学級の連携

- ① 学校生活の充実に向けた取り組み
 - ・ 交流学級の担任による特別支援学級在籍児童への学習支援。
 - ・ 交流学級と支援学級とが連携し、行事に円滑に参加できる実施計画作成の改善。
 - ・ 交流学級での授業、朝・帰りの会への参加時の支援体制の構築。
- ② 特別支援教育にかかわる研修の参加、実施
 - ・ 5月29日（水） 特別支援教育学習会
講師 豊橋子ども発達センター 竹内梢理学療法士
 - ・ 8月5日（月） 校内特別支援教育学習会
講師 可知病院 西本佳世子医師
- ③ 成果

特別支援学級在籍児童への支援と学習状況の把握を積極的に行うことで、生活や行事において交流学級の児童との交流を進めるきっかけとすることができた。また、特別支援教育学習会に参加することで、関係機関の支援体制や教育課程の編成など幅広く知識を得ることができた。

(2) 重点努力目標 ③授業力向上に向けた校内授業研修

現職研修では、令和4年度から「他者とかかわり合って問題を解決する子の育成」を研究テーマとし、他者との協働によって得られる学びや解決に向かう過程で得られる力の獲得に視点をあて、子ども理解を土台にした学習展開や手立てについて研究を継続している。本年度は問題解決の過程を振り返る活動に焦点を当て、話し合うことを中心に研究を進めた。

①主な授業研究会

- ・ 4月8日（月） 昨年度までの研究について教務主任から説明
- ・ 11月5日（木） 山本 梢 教諭 5年国語科「守れ！ぼくらの和の文化
～広めよう和菓子のすばらしさ～」
講師 黄柳川小学校 金田 茂己 教諭（指導員）
- ・ 11月15日（金） 宮崎 修平教諭 4年社会科「新城の能楽、守り隊！」
- ・ 11月19日（火） 石附歩奈実教諭 2年図画工作科「あなのむこうはどんなせかい？」
講師 岡崎市立美川中学校 安藤 眞樹 校長

3 学校評価の結果と分析

(1) 児童による学校評価

- ・ 10項目の自己評価、5項目の学校評価を実施

A:思う
B:だいたい思う
C:あまり思わない
D:思わない
(数字単位は%)

番号	質 問	年度	できた	だいたい できた	あまりでき なかった	できな かった
9	自分から進んであいさつする。	R6年度	53	31	12	4
		R5年度	52	35	10	4
番号	質 問	年度	思う	だいたい 思う	あまり 思わない	思わない
11	学校は楽しい。	R6年度	62	28	7	3
		R5年度	65	26	6	3
13	担任の先生は、わからないところをわかるまで教えてくれる。	R6年度	67	28	4	1
		R5年度	73	25	2	0
15	担任の先生は、一人一人の子を大切にしている。	R6年度	78	15	4	3
		R5年度	80	18	1	1

質問9「進んであいさつする」は令和5年度に改善が見られ本年度もおおむね同じ状況となっている。保護者や見守りの方など、知っている方へあいさつを行う指導、校内でのあいさつ運動やあいさつチャレンジを行ってきたので、指導を継続するとともに指導内容の効果について検証と取り組みの改善を行う。

質問13「担任はわかるまで教えてくれる」、質問14「担任は努力したことを認めてくれる」、質問15「担任は一人一人の子を大切にしている」では「あまり思わない」「思わない」が昨年度より増加している。コロナの制約がなくなり、コロナ禍との環境の変化に起因する不安や不満の増加が考えられる。児童の生活に余裕が生まれる行事等の編成を進めることで児童が落ち着いて過ごすとともに教職員が相談に時間がとれるよう環境を整えたい。

(2) 保護者による学校評価

・10項目の学校評価、自由記述を実施

A:思う
B:だいたい思う
C:あまり思わない
D:思わない

(数字単位は%)

番号	質問	年度	思う	だいたい思う	あまり思わない	思わない
1	お子さんは、学校生活を楽しんでいると思いますか。	R6	52	42	4	2
		R5	49	42	5	1
2	学校は、授業をとおして、基礎学力が身につくように指導していると思いますか。	R6	34	57	8	1
		R5	43	46	7	1
3	学校は、子どもが仲間とのふれあいをとおして、豊かな心が育まれるように指導していると思いますか。	R6	38	50	11	1
		R5	36	51	7	0
4	学校は、「あいさつ先手」「はきものをそろえる」など、子どもが基本的な生活習慣を身につくように指導していると思いますか。	R6	27	53	15	1
		R5	29	49	16	3
5	学校は、子どもが健康的な生活ができるように指導するとともに、子どもの体力の向上にも努めていると思いますか。	R6	41	54	4	1
		R5	33	49	11	1
6	学校は、子どもの健康的な生活ができるように指導しながら、子どもの成長につながるよう教育活動を工夫していると思いますか。	R6	37	58	4	1
		R5	33	48	13	1
7	学校は、学校公開や通信、ホームページなどを利用し、情報発信に努めていると思いますか。	R6	28	56	10	1
		R5	30	52	7	1
8	学校は、保護者や地域と連携しながら、子どもの教育に携わっていると思いますか。	R6	23	58	10	3
		R5	22	52	12	4
9	先生は、子どもたちが意欲的に学べるように、指導方法を工夫していると思いますか。	R6	37	50	5	1
		R5	32	48	10	1
10	先生は、子ども一人一人のことをよく理解した上で、適切な指導をしていると思いますか。	R6	32	47	8	2
		R5	26	48	11	2

質問2「基礎学力が身につくように指導しているか」については「思う」との回答が昨年度より評価が低くなった。一方、質問9「指導方法を工夫している」については全体的に評価が上がっている。基礎学力の定着の指導と指導方法の工夫のバランスについて改善したい。

質問7「情報発信に努めている」質問8「保護者や地域と連携しながら教育に携わっている」は改善が見られた昨年度とおおむね同等の評価であるととらえている。質問8「保護者や地域との連携」については「思う」の割合をさらに増やしていきたいと考える。情報発信の頻度を上げてほしいと保護者からの要望もあることから、地域や保護者と連携した活動の情報発信に努めたい。

(3) 職員による学校評価

・14項目の自己評価、9項目の学校評価を実施

A:思う
C:あまり思わない

B:だいたい思う
D:思わない
(数字単位は%)

番号	質 問	年度	1	2	3	4
			できた	だいたい できた	あまり できな かった	できな かった
3	「廊下を走らない」「危険な遊びはしない」など、子どもたちが安全を意識して学校生活を送れるように指導した。	R 6	67	29	5	0
		R 5	55	40	5	0
4	掃除や後片付けを、子どもたちが進んでできるように指導した。	R 6	43	52	5	0
		R 5	20	75	5	0
5	子どもが自分から進んであいさつできるように指導した。	R 6	52	29	19	0
		R 5	10	85	5	0
番号	質 問	年度	1	2	3	4
			思う	だいたい 思う	あまり 思わない	思わない
15	年間の授業時間数が確保されている。	R 6	52	48	0	0
		R 5	45	55	0	0
16	子どもにとって有意義な学校行事が位置づけられている。	R 6	19	76	5	0
		R 5	10	65	25	0
17	職員会議は、議題が精選され、効率よく行われている。	R 6	14	62	24	0
		R 5	15	55	30	0

本年度は、4月当初から新型コロナウイルスによる制約がない1年であった。学校行事等について持ち方や内容を変更した結果、質問16「有意義な学校行事が位置づけられているか」では、「思う」「大体思う」のポイントが上がっている。子どもの思いを形にする企画・運営を進めることができつつあるという評価ととらえている。

質問3「安全を意識できるよう指導したか」質問4「掃除や後片付けの指導をしたか」質問5「あいさつができるよう指導したか」については「できた」と回答する教職員が昨年度よりも増加した。職員間で日常的に話題にすることで子どもたちへの指導の機会が増えたり、学年や委員会などでよい行動を評価する取り組みを行ったりしたことが教職員評価の改善につながったと考えられる。

保護者アンケート質問4「あいさつ、はきものの整頓などの生活習慣が身についているか」では「思う」と答えた保護者が27%だった。学校・地域・保護者の連携を継続し、さらなる改善につなげたい。

4 成果と課題

子どもたちの多くが「学校が楽しい」と評価している現状は、子ども理解の推進を土台とした、学習指導、生活指導、行事運営の見直しなど、子どもたちを取り巻く活動の改善を積み重ねた結果だととらえている。また、評価の分析を通して、学習、生活、行事などを総合的にとらえ、児童、職員ともにゆとりをもてるよう調整を行うことが課題だととらえている。

今後も子どもたちの学校生活が充実するようコミュニティスクールの充実を含め、保護者、地域、教職員の三者が円滑に活動を進められるよう連携の在り方、情報共有の方法を改善したい。また、児童が自ら学びがあったと実感し、協働を通して学ぶ楽しさを味わえる指導の改善と学ぶ場の環境整備に取り組んでいきたい。